

教えて！田口先生！

トンボはどこまで飛ぶかフォーラムに専門家として参加している田口正男先生に「今さら聞けないトンボの疑問」についてお聞きしてみました！

Q1.

ギンヤンマが街の中で捕まったのはどうして？

2016年、水田や池沼、湿地などにいるギンヤンマとオオシオカラトンボが横浜市の中心部にある東横フラワー緑道で捕獲されました。移動ルートかもしれませんが、緑化などによる居心地のいい緑の存在など、生態系の多様性を反映している可能性もあります。

田口正男先生



トンボは可愛いなあ～



あの池はトンボが少なくとも生物多様性が保たれていていい状態です。水生昆虫がたくさんいます。たとえばゲンゴロウ類がたくさんいます。ゲンゴロウ類もトンボ同様に肉食なので、ヤゴ（トンボの幼虫）が食べられている可能性もありますね。とはいっても、多様な生物がいるという意味ではいい池なんです。トンボがいたずらに増えても必ずしもいいとは限らないんですよ。

現在の調査地の中ではマツダ（株）の池はほかの場所よりトンボが少ないけれど、トンボを増やすにはどうすればよい？

Q4.

Q2.

京浜臨海部のトンボはどんどん増えますか？

トンボは同じようなエサを同じような方法で利用する生物集団（ギルド）で、お互いを捕食し合っている（ギルド内捕食）生物です。京浜臨海部の緑地や池でどのくらいの数のトンボが棲息できるか、キャパシティは決まっています。トンボの数や種類を増やすためにはいろいろな環境が必要です。そうすればいろいろな種類のトンボが棲息できます。小さい池でも 違った環境がたくさんあることが大事です。

屋上につくられた池には高い高度を飛ぶウチワヤンマなどが来ることがあります。最近横浜の川ではハグロトンボが復活してきましたが、比較的流れのある中小河川が好きなので、京浜臨海部では難しいかもしれません。ところで小学校などで田んぼを教育に取り入れているところがありますが、田んぼもアキアカネが増える田んぼやオオシオカラトンボが増える田んぼなどいろいろあります。コシアキトンボはきれいな水より堀のような水がよんだところが好き。学校のプールなどには、秋にススキなど入れておくとギンヤンマがやってきます。

たくさんのトンボのためにはいろいろな環境が必要ということです。

それぞれのトンボで好きな池があるのでしょうか？

Q3.